

# 交換展示

2018年度 明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業

2018  
9.29 土  
▼  
11.4 日

展示会場は南山大学人類学博物館（名古屋）と明治大学博物館（東京）に分かれています。内容をご確認の上ご来場ください。

南山大学人類学博物館所蔵

## 愛知の考古資料 —土器・陶器を中心に

明治大学  
博物館

会場

今年の南山大学人類学博物館からの出品は、当館が所蔵する考古資料の中から、土器・陶器を中心に展示します。愛知県は古代より焼き物の産地として知られてきました。いわゆる「瀬戸物」と呼ばれるほど陶器生産が盛んでしたが、その伝統は縄文時代にまでさかのぼります。今回展示するのは、そうした土器・陶器資料の中でも、全国的にもよく知られた遺跡、あるいは当地を代表する資料です。特に、弥生時代を代表する遺跡である西志賀遺跡は、明治大学でも発掘調査をし、博物館に所蔵・展示されていますので、今回の展示が、発掘以来、実に80年近くもの時を経ての再会ということになります。そういう意味で、展示資料を通して遠い過去に思いを巡らせるだけでなく、それらを発掘し、研究してきた先人たちの姿にも思いを馳せてみてください。

【南山大学出品写真】

背景：西志賀遺跡出土遠賀川式土器（弥生時代前期）  
右図：（左）南山教会古窯址出土灰釉陶器（平安時代）  
（右）入海貝塚出土土器片

ギャラリートーク

南山大学文学部教授による解説を行います。  
10月27日（土）14:00～  
会場：明治大学博物館

明治大学博物館 来館案内

【入館料】 無料  
【開館時間】 月曜—日曜 10:00—17:00  
【休館日】 会期中無休  
【連絡先】 電話 03-3296-4448



東京都千代田区神田駿河台1-1 JR中央線・総武線「御茶ノ水」駅御茶ノ水橋口より徒歩5分／東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」駅、千代田線「新御茶ノ水」駅B1出口より徒歩8分



【明治大学出品写真】

（左）大丸遺跡出土土器（縄文時代）、（右）岩宿遺跡出土土斧（旧石器時代）

## 明大考古学のいま、むかし—モノ学のその先へ—

南山大学  
人類学  
博物館  
会場

1950年の文学部考古学専攻（考古学研究室）および1952年の考古学陳列館の創立をもってはじまる明治大学の考古学は、戦後の重要遺跡の発掘にはじまり、数々の発掘調査を自ら推進しながら、約70年間におよぶ考古学の教育と研究の道のりを歩んできました。

南山大学人類学博物館で開催する本展覧会は、2018年5月に明治大学で開催した展覧会「明大考古学の過去・現在・未来—モノ学のその先へ—」のダイジェストです。展示では、「いま」の明大考古学の特色の一つである、「基準資料の再検討」を紹介し、明治大学博物館にコレクションされている学史的な「むかし」の重要遺跡をあらためて現在の研究視点から見直すことで、新しい課題を洗い出し、発掘当時には思いもよらない最新の研究手法を用いて、遺跡と遺物が語るコトを読み解く研究の一端をご覧いただければ幸いです。

ギャラリートーク

明治大学博物館学芸員による解説を行います。  
10月13日（土）15:15～  
会場：南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館 来館案内

【入館料】 無料  
【開館時間】 月曜—土曜 10:00—16:30  
【休館日】 日曜、祝日、大学の事務休日、毎月最終水曜日13:00以降、大学入試期間  
【連絡先】 電話 052-832-3147（直通）



名古屋市昭和区山里町18 南山大学R棟地下1階／地下鉄名城線「八事」駅1番出口より徒歩約8分／地下鉄鶴舞線「いりなか」駅1番出口より徒歩約15分